

3Dデジタル・インソールが、マラソン世界記録保持者、ポーラ・ラドクリフの復活のカギだった。

2015年、ポーラ・ラドクリフがロンドンマラソンで最後のゴールを切ったとき、だれもが彼女の復活を予想していなかった。2013年3月のBBC放送によれば、女子マラソンの世界記録保持者、ポーラは長引く足の故障により「競技に復帰できない可能性があることを認識している」と語り、引退の危機にあると報じた。

当時39歳のポーラは2012年のロンドン五輪を欠場し、同年8月に手術を受けたが、術後も短時間のジョギングしかできていないという。「わずかな希望だが、レースを走って現役生活を終えたい」と意欲を示す一方で、「このままレースを続ければ20年後には健康な足で歩けないかもしれない」と揺れる心境を明かした。

彼女にとって現役最後のレースとなったロンドンマラソン大会では見事に復活しました。1年以上にわたる厳しいリハビリとトレーニングでも彼女は常には1人ではありませんでした。復活を果たしたこの大会でも、市民ランナーを含めた約37,500人のランナーから、そして沿道の観衆からの絶大な応援がポーラを支えました。そして、彼女が復活を果たしたカギとなったシークレット・ウェポンは、3Dプリントから成型したデジタルインソール「phits™」でした。ポーラは、諦めるという言葉を知りませんでした。ポーラの不屈の精神力は、一流の医師や理学療法士、そしてfootscanプレートで計測したデジタルデータから3Dプリンターにより成型されるデジタルインソールの助けを借りて、ケガを克服してフルマラソンレースに復帰するという彼女にふさわしいゴールに向けて準備を整えました。しかし、それは決して楽な道のりではありませんでした。当時、BBC記事が取り上げたように、彼女が再び走れるようになったのは世界的なプロフェッショナルチームのサポートがあったからだと報じています。

「英国陸上競技連盟や、手術からの回復を導いた医師や放射線技師、モナコの医師、ベルギーのインソール専門家に至るまで、全てのサポートによるものでした。あらゆるサポートが組み合わさったおかげで、回復し始めました。そのインソール専門家とは、1996年からポーラにオーダーメイドインソールを供給していたRSラボでした。特に2014年にポーラが3Dオーダーメイドインソールphits™を導入してからは最後のレースに向けたリハビリにはなくてはならない重要なギアとなりました。

phitsインソールの製造はシンプルでスピーディです。ポーラの動きや圧力を測定するfootscanプレートの上を歩いたり、立ったり、走ったりして、ポーラのダイナミックな運動データを収集することから始まります。



そして、さまざまなゾーンにかかる圧力、つま先立ち、足裏の傾きや歪みなど、従来の方法では得られなかったポーラの運動メカニズムの特徴を特定することができました。

ポーラは、測定結果をスローモーションでデータ分析するのは非常に興味深く、時には自分の意識しているはずの走りや実際の動きが全く違うことがあり、footscan分析の可視化された情報によって、体との調和がよりよくなったと振り返っています。

そして、測定データをもとに高度なソフトウェアによりデザインされ、3Dプリンターで0.1mmの精度で成型されたインソールは、医師とポーラによりリハビリに必要なアイテムとなりました。

「phitsのサポートがなければ、手術後にここまで回復することは不可能だったでしょうし、おそらくランナーとしてのキャリアも続けられなかったでしょう」と、ポーラは語っています。

ポーラは、Phitsとのコラボレーションを通じて、常に人々にインスピレーションを与え続けています。ポーラの怪我からの復活は、他のランナーやアスリート、多くの人々が、同じようにphitsインソールの恩恵を受けています。シャーロット・パデュー、アリー・ディクソン、リリー・パートリッジ、ナターシャ・コクラムといったランナーたちは、phitsインソールを愛用しています。ポーラがトップランナーとして果たした役割は、世界記録や驚くべき復活のキャリアにとどまらず、多くのアスリートが抱える怪我のリスクに備えるカギを残したことは明らかです。